

# GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

2005-2006

ROTARY INTERNATIONAL  
DISTRICT 2510

*No. 7*  
*2006.* **1**



**SERVICE Above Self**

## 2005-2006 ガバナー月信

国際ロータリー第2510地区

2005-2006年度 ガバナー

**塚原 房樹** FUSAKI TSUKAHARA

〒060-0042

北海道札幌市中央区大通西11丁目4 大通藤井ビル3F

TEL・FAX(011)207-2510

e-mail : d2510go@wave.plala.or.jp



2005 - 06年度 国際ロータリーのテーマ



# 超我の奉仕

## C O N T E N T S

ガバナーメッセージ	01
ガバナー公式訪問	04
ロータリー・ゾーン研究会報告	06
委員会報告 (WCS・補助金)	13
投稿記事	
室蘭東・登別・白老RC合同家族同伴夜間例会 (室蘭東RC)	15
日本事務局からのお知らせ	15
ご協力に感謝申し上げます	
ロータリー財団	16
米山記念奨学会	17
会員訃報・新入会員のご紹介	
ハリケーン・カトリーナ募金報告	18
例会変更・文庫通信	19
下期地区カレンダー	20
11月の出席率・会員数	21

■ガバナーメッセージ



2005 - 2006年度  
国際ロータリー第2510地区  
ガバナー 塚原 房樹

## ロータリーと否定の論理

新年明けましておめでとうございます。

会長幹事の皆さんには、お元気で新春を迎えられたこととお喜び申し上げます。松飾りもとれ、もうすでに新年の決意新たに活動を開始されていることでしょう。我々の年度もいよいよ下半期に入りました。人生にとっても組織にとっても大敵は「慣れる」と云うことです。「慣れ」から身を守る唯一の方法は、初心を忘れないこととあります。どうか会長幹事さん、就任された際の謙虚で緊張したみずみずしい気持ちを忘れずに、当初の活動計画をチェックして、年度の仕上げにむけて一層の努力をお願いいたします。

ロータリーとは何かを考える上でもっとも大切なことは、ロータリーの精神とは何かということです。選ばれて初めて入会した人や、手続要覧に初めて出会ったロータリアンは、その難しい理屈に圧倒され、しばしば途方にくれるでしょう。このようなロータリーを管理する技術的仕組みは、もちろん重要ではありますが、第二義的なことに過ぎません。私たちはその組織規定に迷わされること無く、技術の背後にあるロータリーの精神を見抜かなければなりません。いくらロータリーの奉仕プロジェクトを学んでも、その精神がわからなければ、ロータリーがわかったとは到底いえないでしょう。ロータリーの精神とは、一言でいえば倫理であります。ロータリーは職業人の集まりです。それゆえロータリーとは何かという問いは、職業倫理とは何かという問いに置き換えられます。法学は正義を探究し、芸術は美を探究する、科学は真理を探究するという例に例えるなら、ロータリーとは職業倫理を探究するということになります。だからロータリーに入会したものは、倫理を求め、職業奉仕を実現する精神を身につけなければならないのです。この原点を忘れたものはロータリーについて語る資格はありません。

では職業奉仕を実現する精神はどこで身につけたらいいのでしょうか。それはロータリーの例会です。また奉仕の海を航海する者、何を一体目印にしたらいいのでしょうか。それはロータリーの開発した良質な理念なのです。理念にはロータリーの綱領、ロータリー標語、4つのテスト、ロータリー倫理訓などがあります。ロータリーのバイブルである決議23-34によると、これらの奉仕の理念を団体で学ぶこととあります。次いで各会員から自分の業界に無い知恵を学びます。つまりロータリーの例会は会員同士が切磋琢磨してロータリーの理念と異業種の知恵を学ぶ教育的な場なのです。

そのためにロータリーは比類なき、特別の制度を用意しています。ロータリーは無数の歯車から成り立っています。その中で特に重要な二枚の歯車があります。それが「職業分類制度」と「例会出席」です。ロータリーはこの二つを失うとロータリーという名前は残ってももはや異質の団体となります。「職業分類制度」の原則は一業一会員制です。職種が異なるとそこから発想する人生観がそれぞれ違います。自分の業界に無い異業種の知恵を毎回の「例会出席」を通じて学び自分を高めていく、これが奉仕の心の育成にあたります。職業が違うということは互いに『異質』であります。またロータ

リアンは企業の管理者としてレベルは同じです。レベルが同じだと仲良くなれます。レベルが同じということは互いに『等質』です。『異質』と『等質』が出会うと爆発的の自己改善効果が起こります。ロータリーで漠然と切磋琢磨とか自己改善とか言いますが、これは『異質』と『等質』の出会いのことなのです。ロータリーは異業種の会員の知恵を例会の親睦を通して学ぶことなのです。

近年、悲しむべきことはロータリーを隆盛に導いたこの比類なき「職業分類制度の原則」と例会への「規則的出席」がないがしろにされ、換骨奪胎、ロータリーは人を作る運動から、人道的国際ボランティア団体に移行してしまったことです。しかし奉仕の新世紀を迎えてRIは職業奉仕の再構築を提唱し、原点回帰の姿勢が見えたことは日本のロータリアンにとって朗報です。

ここでもう少し例会での『切磋琢磨』という表現を認識論的に分析してみましょう。ここに否定の論理の存在を見ることが出来ます。

ロータリーはその発展過程において〈他人の立場に立って〉という自己研鑽の原則を確立しました。しかし〈他人の立場に立って〉という原則は、日常の例会では他の会員に対する妥協的対応のみ見られて、相手の気持ちにひたすら迎合することと誤解されています。これでは『切磋琢磨』とはほど遠い次元です。

本来の〈相手の立場に立って〉ということは、例会場で自分の心の中にもう一人の自分をおいて、現在の自分を否定することです。もう一人の自分が他の会員の言動を見習って、自己否定（反省）することによってロータリアンの境地は進化します。

このことを明確に解明したのは、青森ロータリークラブの渡辺泰助氏でした。氏の会長時代の会報（1968年1月4日）の〈他人の立場に立って考える〉という小文を引用します。『奉仕第一、自己第二という標語があります。この言葉もよくロータリーを表していきましょう。しかし私は〈他人の立場に立って考える〉ことが、ロータリアンの基本とされるとき、それに最も深い意味を感じます。〈他人の立場に立って考える〉ということは、人間の自覚という作用の構造を実に良くあらわしていると思うのです。考えるのはあくまで自分であって他人ではありません。ですから〈他人の立場に立って考える〉ということは、自分の中に、自分でないもうひとりの自分……非我といっておきましょう……を持ち、その立場で考えるということになりましょう。自分で自分の目を見ることは出来ません。いったん、鏡か何かに映して見なければならぬでしょう。これと同じように、自分で自分を直接知ることは出来ません。非我の立場に立って自分を見て、初めて正しく自分を知りえます。つまり、いったん自分から離れることが必要です。自分についてばかりいては駄目なのです。非我の立場というものは広いものです。自分を深いところから支えている立場です。

自分……我は、空間的にも時間的にも限られたものです。これに対して非我は無限に連なるものです。ですから自分の中に非我を持ち、その立場に立つことによって、限られた身の我が、限られたものではなくなるのです。身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれということでしょう。我だけで持ちこたえられ

る時間は知れたものです。我は非我によって歴史に耐えられるものなのです。〈他人の立場に立って考える〉という思想はロータリーに固有のものではありません。もっと普遍的なものです。非我の立場に立ちがたい、打算の世界にこれを適用しようとするところにロータリーの本領があると思うのです』

青森RCより40年前の会報を送ってもらいました。渡辺氏はロータリーの例会における否定の論理の存在を明快に解明されました。これは誰もが為しえなかったことで 私は氏をロータリーの恩人と呼んでおります。

このようにしてロータリー思想の根底には、個々のロータリアンの認識の世界において、奇しくも正反合、直感・反省・自覚という弁証法が作用していることを知ります。〈相手の立場にたって考える〉ということは、相手に迎合することではなくして、ロータリアンがその心の中に客観的自己を立てるに当たって、相手側の行動を媒体とすることを意味します。これがあればこそ個々のロータリアンがその境地の向上を果たすことが出来るとともに、例会出席およびロータリーの教育的機能の実態がわかるのであります。否定の否定は「重要な発展法則」であります。

ロータリー運動の目的は個々の会員の自己研鑽です。職業人として更に自分を高めるために他の業界の知恵を例会で謙虚に学ぶのです。そのために漠然と例会に出席するのではなく、ロータリーの例会で自分を磨くのだという自己研鑽の目的意識を持って出席することが必要です。自己研鑽の目的意識を持つということは、〈他人の立場に立って考える〉ということなのです。

「ロータリーとは何か」、「ロータリアンとは何か」がいつも問われますが、これは簡単に答えられる問題ではありません。ロータリーは理解しやすいと同時に定義しがたいものです。ロータリーとは、対立する政治・哲学、宗教、信条の違い、文化的価値の違いが唱える「否定」を潔しとせず、これを超越することによって国際親善と理解を妨げてきた障壁の全てを乗り越えていく生きかたであります。ロータリーはこれらのイデオロギーや信条の違いに関する究極の問題に対して対決するのではなく、寛容の精神でこれらが持つ価値を止揚（他人の立場に立って考える＝否定の論理）して、人間性を高める生きかたです。

このような考え方から、ロータリーにあっては、例会における親睦活動のうち各自の精神的境地が接触し、自己否定の論理を媒体として各自の精神的境地が高まり、支配ではなく寛容の精神によって社会集団活動が目的を達成するという理論構造を持っています。まして国際紛争を武力行使によって解決することを認めないのです。

『ロータリー理解推進月間』にあたり例会における自己研鑽・切磋琢磨の必要条件を少し掘り下げて考えてみました。

今（11月10日）、この原稿を書いている時テレビで鳥インフルエンザの対策がしきりに報道されています。どうか会長幹事の皆さんくれぐれも風邪にはお気をつけください。

ガバナー公式訪問ではありがとついでいきました



札幌モーニングRC公式訪問（9月28日）



千歳RC公式訪問（9月29日）



札幌幌南RC公式訪問（9月30日）



札幌手稲RC公式訪問（10月1日）



札幌南RC公式訪問（10月3日）



札幌清田RC公式訪問（10月4日）



ガバナー公式訪問ではありがとうございました



札幌セントラルRC公式訪問 (10月4日)



札幌西RC公式訪問 (10月18日)



札幌真駒内RC公式訪問 (10月19日)



札幌西北RC公式訪問 (10月20日)



札幌北RC公式訪問 (10月24日)



函館RC公式訪問 (9月15日) 12月号掲載の写真に間違いがありましたので、再度掲載させていただきます。



## 第34回 ロータリー・ゾーン研究会報告

2005 - 2006年度 国際ロータリー第2510地区  
ガバナー 塚原 房樹

今年度の第34回ゾーン研究会は、付随行事として財団地域セミナー、ガバナーエレクト研修セミナー、ガバナー会、地区会員増強委員長合同セミナー並びにRI会長歓迎晩餐会を含め、11月24日より27日の4日間、東京の新高輪プリンスホテルで開催されました。

招集者は南園義一、重田政信、両RI理事でカール・ヴィルヘルム・ステンハマーRI会長並びにフランク・デブリン財団管理委員長をお迎えして開催されました。

ロータリー・ゾーン研究会は、RI元、現、次期役員にRIの方針やプログラムを伝えると同時に、これらの方針やプログラムの改善、刷新について意見を述べる場であります。

本年度はまさにロータリー第2世紀の幕開けの年であり、ロータリー100年の歴史を踏まえて先人の知恵をこれからのロータリーに活かすべく、将来の更なる発展を目指し新世紀ロータリーのあり方が討議されました。

第1日目の冒頭ステンハマーRI会長は、基調講演の中で各国のクラブ拡大事情に触れ、『ロシアは現在アメリカの5010地区が管理しているが新たにロシアに地区を作りたい、また香港、マカオ、モンゴルとは別に10億の人が住む中国本土にロータリーを拡大することを理事会決定、目下コーディネーターを検討中。キューバは1960年の制裁後ロータリークラブはなくなったが再興したい。またキプロスは分割されているが全体を1つの地区としたい』そして女性会員の入会を強く求められました。

南園理事はRI近況報告の中で、『①会員増強におけるコーディネーターシステムの活用 ②財団はロータリービジョンの確立が必要 ③ポリオ、ロータリープログラム、トレーニング教育、公共パブリックリレーション、これらはロータリー100周年を終えこれからどうあるべきか ④RIプログラムの整理→RACT、IACT、GSE、そして趣味職業別親睦活動をヒューマニティックとロータリーアクショングループに分ける ⑤地域的文化的なロータリーの多様性の尊重 ⑥ロータリーの2つの標語のうち「Service Above Self (超我の奉仕)」だけ取り上げられ、「He Profits Most Who Serves Best (最も奉仕するもの最も多く報いられる)」は何故ないがしろにされているのか、再考の必要あり ⑦金をばらまく上滑りの奉仕から、人間を愛し幸せをどうやって実現するのかという倫理観に裏打ちされたささやかな活動の必要性 ⑧現在各国で独自の情報ウェブサイトがあるが、RIウェブサイトオフィシャルな基幹ウェブサイトとする』と述べられました。また南園理事は「RI財政5カ年計画」について、『2005-06年の人頭分担金は43US\$、2007-10年は47US\$、会員数を現状のまま、インフレ率3%、投資利益5%に推移すると仮定して、2010年までは健全』とシミュレーションされました。

玉村文夫ロータリー財団管理委員の「ロータリー財団近況報告」は丸山淳士エレクトが触れられておりますので割愛します。また「ポリオ撲滅キャンペーン報告」「ロータリー・センター報告」がありました。

続いて田中作次直前理事は「ロータリー第2世紀を迎えて」という講演で3つの課題を話されました。この講話は各クラブの皆さんにも是非お伝えしたいので、メモを整理して若干詳細に記します。『第一にガバナーの任務の最初に掲げられている会員の増強と拡大について。日本の会員数は1998年6月末には127万人、2005年6月末には100万人、7年間で平均3300人の減少。会員増強でご支援を頂いた銀行、保険会社などの企業、特に大都市を除く地方で支店長クラスを全国的に失った。一方女性会員は世界では12.7%、日本では3.3%と低く今後の積極的な開拓をお願いしたい。魅力的なクラブづくりが会員増強と退会防止の要であり以下の項目に留意してほしい。①毎例会の情報提供 ②少人数による討論式会員研修 ③クラブ指導者育成プログラムの実施 ④新会員研修プログラムの実施 ⑤元会長の研修企画 ⑥ロータリー活動と向き合うスタンス ⑦クラブの中・長期計画の作成。企業や組織には必ず中・長期計画がある。同様にロータリークラブも将来の適正な会員数、プログラムの絞込みとその充実、適正な会費、ウェブの積極活用、広報の重要性、人材の育成など3～5年のスパンを考慮したクラブ独自の計画が必要。これは会員に夢を与え、新しいクラ



ブのあり方と真剣に取り組むことによりクラブの魅力は増加する。情報資源については2005ロータリー必携、例会用の4分間情報(最新の45テーマを用意)がある。第二の課題は一部少数の方々の現象とはいえ、国際ロータリーに対する不満や、ロータリー財団に対する拒否反応がある。どの組織や人々にもそれぞれの長所と短所が並存する。文化、歴史、宗教の異なる世界168カ国の全てのロータリアンに完璧な満足を提供することは不可能である。しかしロータリーは100年の間、長所と短所を同居させながら多くの課題と論争を乗り越え、会員のニーズに耳を傾け今日まで発展して来た。それは世界32,000クラブと会員相互の協力によるものであった。ロータリーの原点はクラブにある。クラブの魅力が醸成されてこそ会員の帰属意識が高まり国際ロータリーの発展が約束される。

第三はロータリーと向き合う個人のスタンスである。入会して間もなく2回もクラブを退会したいという友人の奥さんが「主人は以前から我が強く人の言うことは聞かず困っていましたが、ロータリーのおかげで最近ではすっかり変わり生き活きとして角が取れました。ロータリアンになってくれてよかったですと感謝しています」と話された。

ロータリーは私たちに人としての生き方を教え、ビジネスを始めあらゆる場面で学ぶ場を与え地域や世界社会に向けて奉仕の機会を与えてくれる。自らロータリーに何かを得ようとするならそれは無限であり、良い人生を送るために多くを学ぶことが出来る。「National Rotarians」12月号に掲載されたポールハリスの言葉を一部ご紹介しましょう。《私たちの生きる道は何であろう。それは学ぶことです。何を学ぶために生きているのでしょうか。学ばなければならない唯一のことは、どうすれば自己に囚われないようになるかということです。遅かれ早かれ私たちは自己と決別せざるを得ません。最後の日を迎えるまで、自己に囚われているかもしれません。あるいは自然に、徐々に喜びを持って自己と決別できるかもしれません。18歳のときあなたは100%エゴそのものでした。単に自己中心であるだけでなく、徹頭徹尾自分の事だけ考えていました。カーライルによると、18歳で人は嫌味の局地に達するという事です。それから仕事に就きます。そしてあなたの自我が屈服します。次いで結婚します。結婚に伴いあなたの自我はまた屈服します。自我との決別はこのように自然に喜びを伴いながらやってきます。あなたは自分の内部で何が進行しているのかほとんど気付かないでしょう。あなたは犠牲を払うという榮譽のために懸命に戦ってきたことでしょう。私たちの生きる目的は何でしょうか。学ぶことです。何を学ぶのですか。人生を学ぶのです。人生の中で如何にエゴと決別するかを学ぶのです》と結ばれました』少々長くなりましたが田中直前理事の講演をご紹介しました。

以上がゾーン研究会第一日目午前の部、本会議のプログラムでした。午後は「ロータリー第2世紀の課題」として、規定審議会「第2世紀のルール」について田中毅PGより規定審議会代表議員に対する注意事項の説明がなされました。また河本親秀ポリオ・プラスコーディネーターによるポリオ・プラス「究極の目標を求めて」の講演と質疑応答がありました。

その後の各分科会では、ステンハマーRI会長の要請に基づいて1.ロータリー第2世紀のビジョンを語る 2.ロータリー情報とクラブ強化・CLP 3.会員基盤の強化と公共イメージ 4.水保全と健康 5.識字と教育 の5部門に分かれて行われました。これらについては研究会報告書にまとめられます。皆さんには機会を見てフォーラムの内容を付言させていただきます。ゾーン研究会2日目は、分科会報告と全体フォーラムがありました。

なお25日のガバナー会では、2004-05年度ガバナー会決算報告、次いで1.カムリーバンク募金状況報告 2.カトリナ災害義援金報告 3.ガバナー会・青少年育成会の職場体験ビデオ 4.ガバナー会・青少年交換委員会(性的虐待防止対応) 5.ロータリー情報センタージャパン設立準備委員会についてそれぞれ報告並びに審議が行われました。ちなみに当地区のカムリーバンクの募金は740,351円、カトリナ・ハリケーン義援金は2,148,840円でした。全地区平均を上回るご協力をしてくださった各クラブの皆さんに心より感謝申し上げます。

今回のロータリー・ゾーン研究会はロータリー第2世紀の幕開けの年にふさわしい、ロータリアンであることを実感できる感動的な研究会であったことを最後に申し添えて報告といたします。





## 心景・第34回ロータリー・ゾーン研究会

パスト・ガバナー 石垣博美 (札幌セントラルRC)

### 「100ドル」キャンペーン

ステンハマーRI会長とデブリン財団委員長のコンビが素晴らしかった。プレナリー会も分科会も熱気が走り、懸案の「100ドル」プロジェクトは功を奏したのではないかと。私個人もこれほど言われると、クラブ全員に「月千円」キャンペーンを奨励しようと思った。出席者全員が私同様な印象を持たれたら今年度、日本における「100ドル」キャンペーンは大成功であろう。

### 北欧型ロータリーの「かたち」

というのもRI会長は北欧、財団委員長は南欧、この欧州出身のRI役員は絶妙なコンビはひととき説得力を持っていたように考えられるからだ。それに財団委員の玉村氏が加わり、私どもは感動したからである。ステンハマーRI会長は基調スピーチの持ち時間の全てをアジアにおけるロータリー分布、その活動の状況に費やした。ユーラシア、アラスカ地域やオセアニア、そしてインドまでも含む「拡大アジア」に広がるロータリーについて語った。そこには、戦後60年めざましいロータリー活動があって一時は、全世界ロータリーの60%を占めていたという。中国本土にすら2つの仮クラブはあり、周辺には48のクラブ（香港・マカオ）が活動している。ところが、現在の日本はどうも元気がない。勿論その理由にははっきりしている。十数年に及ぶ戦後最大の不況のためだというより、アメリカ主導の“グローバリティ”への対応に遅れたためだ。だがしかし、この調整過程は終わった。どうかアメリカに次ぐロータリー大国日本を回復して欲しい。日本にとってその仕事はそんなに難しくない。なぜなら、第1に日本のロータリアンは知っている。ロータリー活動は、とてつもなく大きな「ジグソーパズル」のようなものだ。ロータリアンはそれぞれ大小様々な形の身の丈に応じたパート（細片）をパズル絵にインプットする。それは、「寄贈」であるが、互酬感覚の始まりであり「奉仕」に繋がる。思い出して欲しい。G.K.東ヶ崎（1967-68年度RI会長）は「参加（participation）」という標語を掲げた。そして、1982-83年度の向笠RI会長「人類の友愛（Mankind is one）」と言った。この向笠RI会長のスローガンは20年前のものなのに第2世紀のロータリーが目指す世界に一致する。この大いなる21世紀の目標に向かって、日本のロータリアンは「参加意識を発揮しつつ、21世紀の友愛の時代」の課題に取り組んで行かねばならない。以上が、私の心に響いたステンハマーRI会長のメッセージである。

### 会議は踊る

今回も会議は踊ったのである。私はどうもロータリー活動にも国により地域により、色々なタイプがあるような気がする。北欧型は日本型と共通するところがあるのではなからうか。その意味でステンハマーRI会長のスピーチに印象を強め、親しみを覚えた。来年のゾーン研究会が楽しみである。



## 第34回 ロータリー・ゾーン研究会参加報告

パスト・ガバナー 伊藤長英 (苫小牧北RC)

1997年に札幌で開催されたロータリー研究会（2002年よりロータリー・ゾーン研究会）に参加して以来、連続9回

目の参加となりました。会の運営については、年々改善され充実してきています。研究会の全容については塚原ガバナーにお任せして、私は米山記念奨学会について述べます。この研究会において米山記念奨学会が取り上げられたのは第31回（2002年）が最初です。その理由は、2001年までは日本独自の奨学会として活動しており、RIには認知されていなかったからです。2002年にタイのビチャイ・ラタクルRI会長が日本の研究会に参加された時、静岡県三島市にある米山梅吉記念館を訪問されました。その後RI理事会において米山記念奨学会が高く評価されると共に、日本のロータリーの多地区合同活動であるということで正式に認知されたのです。それ以来毎年この研究会において取り上げられ、今年も宮崎専務理事が発言の機会を与えられました。パワーポイントを使用してわかりやすい説明でした。まず明るいニュースとして1996年以来毎年寄付額が前年比マイナスが続いていましたが、今年9年ぶりに前年比プラスになった（11月末現在）との報告があり、今後是非この状態が続いてほしいとの願望を述べられました。次に米山奨学会においては2006年度からの事業制度改編に取り組んでおり、①「現地採用ロータリー米山奨学金制度」と②「地区奨励ロータリー米山奨学金制度」を新設、①については来日することさえ出来ない優秀な学生の日本留学を支援する制度で最初はベトナムのホーチミン市からを予定している。②については短大・高専・専門学校を地区の判断で指定校にすることが出来、奨学金額が7万円であるため、採用数1名枠で2名採用できる。現行制度の改訂点は、現役奨学生の延長支援制度である「クラブ支援ロータリー米山奨学金」の対象を、博士号取得見込み者のほか同大学の上級課程への進学者へ拡大し、複数回申請を可能とする。その他、地区別奨学生割当数算出方法を、学生数1割：個人平均寄付額5割：地区別寄付額4割とする。そして世界で活躍する米山学友の紹介がありました。これは米山学友の群像という小冊子に詳しく記載されています。



## 第34回ロータリー・ゾーン研究会に参加して ロータリー情報とクラブ強化・CLP分科会

パスト・ガバナー 岩城 秀晴 (札幌南RC)

第1日目、11月26日（土）の分科会は、近年会員数の減少に伴い、RIがこの対応策として、クラブ・リーダー・シップ・プラン（CLP）をロータリークラブに推奨される管理的枠組みであります。当2510地区においても、地区大会の際に、田中氏がセミナーとして御講話されましたが、この問題について、研究会においても取り上げられました。黒田氏がモデレーターとなり、パネリストに曾我・川尻両氏、リポーターに太田氏のもとに展開された。クラブ会員の減少原因の追究とその施策が述べられたが、やはり、ロータリーとは何か、奉仕の中の財団への思考との葛藤が減少をもたらす結果となっているのではないかと、ロータリーは100周年を迎えた今期的問題として考えることではないだろうか、新会員に対してはクラブの情報委員会において情報を交換するだけでよいのかどうか、むしろ地区における新入会員のフォーラムを地区協議会又は地区大会において開催するのはどうであろうかと私は提言したいのです。

新会員はロータリークラブの情報では不足であり、地区におけるレベルでセミナー又は協議会を開催し、知識のレベルアップを図る必要性を感じる。これによって、ロータリーへの共感と感動が与えられるのではないかとと思う。CLPの事はクラブにおいては会員数の規模により、その組織の変化があっても良いのではないかと考えられました。CLPは、クラブの蘇生策として考えられたもので、奉仕活動を効果的にクラブ運営で実施出来るのではないかと考えます。クラブの会員数によっては、委員は3年任期となる場合が多くなると思われませんが、むしろこれによって奉仕活動に対する理解が深められる。

以上は、CLPのセクションにおいて、テーマによって討議されたことについて私見を交えて記述しましたが、特に質問の中で、新入会員の教育であり、情報をスピードをもって広報するとか、会報が粗雑である、会長の挨拶が不誠実である。意識の喚起が少ないと云われた。当地区においてもCLPの採択には時間を要するとは思いますが、迅速に実施することが退会者の発生を防止することが出来るのではないかと考えられます。



## 識字と教育

パスト・ガバナー 小林 博 (札幌北RC)

「識字と教育」の第5分科会のコーディネーター藤川享胤パストガバナー（鶴岡RC）から私の所に電話があり、ロータリー・ゾーン研究会（11月26、27日 東京）の分科会で発言してほしいとの依頼であった。

### 単年か継続かの比較

特に2510地区に「スリランカ子ども基金北海道」というのがあるが、それはどのようなものか説明してほしいというのである。恐らくこの基金の目的が「識字と教育」に関すると考えられたからであろう。

そこで当日、私は「この基金は岩見沢東RCの100周年記念に寄せられた同クラブ会員のご芳志をスリランカの子どもの教育支援のためにとの主旨で作られた基金であり、しかも同基金を使い込むことなく一定の利率から生み出る利息のみで事業を行うものである。従って単年度の支援に留まることなく半永続的な支援活動を狙った基金である」と説明した。

「識字と教育」に関わる息の長い仕事は単年で完了できることではないことは当然である。大きな夢の事業ほど息の長い継続的な事業が望まれるのではないか。それだけに少なくとも自力で継続事業を行える最小限の態勢を作っておく必要があるであり、「スリランカ子ども基金」はそのような狙いの一つの新しいモデルになると思われる。

### タイとスリランカの比較

識字のことが識字率およそ100%の日本で問題になることはない。だが国際ロータリーでは識字がポリオに次ぐ大きな課題と受けとめている。それは識字率の低い国々がこれに絡んでいろいろ多くの難題をかかえているからである。

識字とは字を読めるかどうかであるが、単に字を読めるようにするというだけの意味ではない。その背景には貧困問題があり社会不安が潜む。人間の不幸が大きく関わっている。貧困は非識字を呼び、非識字は貧困を招くという悪循環もある。従ってロータリーの非識字対策は世界で最も重大な貧困対策の一つといってもよい。

非識字はアフリカ、アジアの一部地域に目立っている。試みにタイとスリランカのGDPと識字率を比較してみるのも興味深い（表1）と思い、分科会当日、私はさらに次のような説明を追加した。

国民一人当たりのGDPは2003年の統計でスリランカは956US\$、タイ2,278US\$であるから、スリランカのGDPはタイの2分の1から3分の1ということになる。つまりスリランカはタイに比べかなり貧困なのである。ところが識字率はタイとおおよそ同率である。この事実と関連があると思われるが、両国は平均寿命が同じであり（というよりスリランカのほうがむしろ1年長いのだが）、乳児死亡率では1,000人対でタイが25.4に対しスリランカは17.3と逆転してしまう。

従って少なくとも平均寿命や乳児死亡率に代表される医療レベルでみる限り、そのレベルは一人当たりのGDPとは必ずしも相関しないことがわかる。その要因は識字率以外にも多くあるのであろうが、私はスリランカの識字率の高さが同国の医療の水準を下支えしているのではないかと考えている。

### 他組織とロータリーの協力

JICAに草の根支援事業というのがある。私達の所属するNGO（財団法人札幌がんセミナー）がスリランカで行っている小中学校の子ども達に対する生活習慣病対策はこのJICAの草の根支援事業の一つである。3年間に1千万円（年間3百～4百万円）の予算で始めたが、経過によっては5千万円、将来さらに年間1億円の大きな事業への発展の可能性もある。

もちろんこの草の根支援事業は同国1万校の小中学校の全てをカバーできるものではない。津波被災地に近い南部州からとりあえず4校をモデル校として選び、そこに私は既に数回足を運んだ。ところが学校側の差し当たっての要望は

安全な水の供給、清潔なトイレの設営であり、また毎日教室で使う黒板の提供である。これらの要望はJICAの大きな目標以前の余りにも身近な問題でもある。

同国への生活習慣病対策や識字運動を通してよく考えるのだが、JICAのような大きな組織の行動計画の行き届かないかも知れないところをロータリーが動くことによってこれを補う、つまりその補完役を果たすことはできないものであろうか。あるいは逆にロータリー単独では難しい大きな事業にJICAの手を借りることはできないものであろうか。いずれにしても、2つの大きな組織、国際ロータリーとJICAが共に手を携えて一つの大きな計画を継続的に進めていくことは素晴らしいことではないかと思う。

このことはポリオ撲滅が国際ロータリーだけでなく日、英、米をはじめとする各国政府、WHO、ユニセフをはじめとする多くの組織の資金支出によってなされた輝かしい成功の歴史を思い出させる。これからのロータリー活動もポリオ撲滅にあやかって、ロータリー単独に固執することなく、政府機関はじめあらゆる組織との積極的な協力、連携があってもよいのではなかろうか。「識字と教育」という目に見えにくい巨大な計画を成功させるためにも必要なことではないかと思うのである。

誤解がないように書き添えれば、ロータリーが自力単独ではなく仮に他組織と力を合わせるとしても、その狙いはあくまでも大きな目標の達成であり、また我々の背中を支えるものはいつもロータリーの「奉仕の心」であることを忘れてはいけない。

## 補足

最近タイの識字率は数年の間に92%から95%に上昇した。これはCLEの成果といえるのかも知れない。CLEとは Concentrated Language Encounterの略称で、非識字の人たちに対する独特の語学教育によって、いま非常に大きな成果を挙げつつあるという。

特にタイのロータリアンの積極的な協力もあって、学校教育の現場のほかにストリートチルドレンや目の不自由な子ども達も含めすべての非識字の人たちに対し「聞く」、「話す」、「書く」を反復する特訓法が大きな成功をおさめている。その実績をもとに、タイのほかバングラディッシュ、南アフリカ、ブラジル、トルコ、エジプトなどにもそれぞれの母国語による識字率アップの計画が進行中である。

## さまざまな指標の国別比較

(表1)

	日 本	スリランカ	タ イ	単 位	統計年度
面 積	377,880	65,610	513,115	km <sup>2</sup>	2001年
人 口	127,687	19,218	63,465	千人	2004年
出 生 率	9.2 (2002年)	17.3 (1999年)	19.6 (95-00年推計)	人口1,000人当たり	
死 亡 率	7.8 (2002年)	6.0 (1999年)	6.1 (95-00年推計)	人口1,000人当たり	
乳児死亡率	3.0 (2002年)	17.3 (1996年)	25.4 (95-00年推計)	人口1,000人当たり	
平均寿命 平均	81.9	70.3	69.3	年	2002年
男	78.4	67.2	66.0	年	
女	85.3	74.3	72.7	年	
国内総生産(GDP)	4,302,557	18,237	143,158	100万米ドル	2003年
一人当たり	33,727	956	2,278	米ドル	
国民総所得(GNP)	4,375,883	18,042	140,636	100万米ドル	2003年
一人当たり	34,301	946	2,238	米ドル	
医 療 費	8.0	3.6	3.7	対GDP比率	2001年
医 師 数	1.9	0.4	0.4	人口1,000人当たり	1995-2002年内の最新年次の数値
病 床 数	16.5	2.9 (1980年)	2.0	人口1,000人当たり	”
識 字 率 平均	—	92.1	92.6	人口1,000人当たり	2004年
男		94.7	94.9		
女		89.6	90.5		

「世界の統計2005」総務省統計局 編集総務省統計研究所より



## セミナー出席報告

ガバナー・エレクト 丸山淳士 (札幌真駒内RC)

### 第2回ガバナー・エレクト研修セミナー (GETS) に出席して

2005年11月25日、東京の新高輪プリンスホテル国際館パミールにおいて開催された。

RI研修リーダー・GETS研修チームリーダー川尻政輝氏の司会進行で研修が開始された。

セッションが1から7まであり、セッションが1のコミュニケーションに続き、会員増強、国際ロータリーからの支援、国際協議会予備知識、奉仕プロジェクト、オープンフォーラム、評価とぎっしりとたたき込まれた。

配偶者も同伴であり、配偶者にはセッションが3つで、ロータリーの基礎知識(1)はロータリー財団についてを南園RI理事が担当、ロータリーの基礎知識(2)は国際ロータリーについてで、重田RI理事が担当した。セッション3は配偶者懇談会でロータリーの基礎知識を学んだ。

終了後、配偶者は国際協議会でのプレゼンテーションの練習に入り、ガバナー・エレクトもセミナー終了後これに加わり、「マツケンサンバ」の練習にまたまた汗を流した。

研修会では、公式訪問のあり方、クラブ行事にどこまで参加するか、ガバナー講演を効果的にするにはどうすればよいか、どのような主題を盛り込むか、ガバナー月信には何を盛り込むべきか、ロータリーの広報のあり方、地区大会における諸問題について、具体的指導と討論が行われた。

私も含め、高齢者の多いガバナー・エレクトの34名は、学生時代に逆戻りして各研修リーダーの質問攻めに鈍くなった頭脳にむち打ちながらの一日であった。



### ロータリー財団セミナーに出席して

11月24日、ゾーン1, 2, 3, 4 (A) のロータリー財団セミナーが、東京の新高輪プリンスホテル国際館パミールにおいて開催された。

RI会長カール・ヴィルヘルム・ステンハマー氏、TRF管理委員長フランク・J・デブリン氏(写真)、そしてロータリーセンター部長のジュディ・S・ギブソン氏も出席された。デブリン氏は、4つの“T”を提唱し、意識の喚起を提唱された。

4つの“T”とは ①Think (考える) ②Talent (知能) ③Time (時間) ④Treasure (宝:財産) であり、ロータリー財団にたいして、会員皆様の考え、知能、時間と財力を提供していただきたいということである。

RRFCの片岡信彦氏の司会進行でセミナーが進められ、RRFCの宮崎茂和氏の来賓紹介に始まり、南園義一RI理事の挨拶、玉村文夫TRF管理委員の財団管理委員会報告があり、田中作次恒久基金日本委員会委員長の報告、RRFC上野孝氏より寄付の重要性とロータリーカードの経過報告があった。特に、ロータリーカードは加入会員が1万名に達して初めてロータリー財団にたいしてのカード会社からの3%が支払われることになっていたが、思うように会員数が伸びず、現在1,600名の加入しかないので、カード会社と交渉の上、来年3月末までという条件付きで、会員3,000名でカード会社から3%の支払いができるようにしていただいたということである。あと1,500名の早急な加入が必要なので、各会員の絶大な協力をお願いするということである。ゴールド会員と普通会员とがあり、ゴールド会員は年会費があるが加入時点で3,000円が財団に寄付される。普通会员は年会費も無料であり、今後とも金銭的負担は全くないので、是非加入していただきたいとのことである。皆様のご協力をお願いいたします。



片岡RI日本事務局財団室長からは、ロータリー財団改正事項についての説明があった。最後に、重田政信RI理事の講評でセミナーが終了した。



## タイ国ノンカイRC訪問ツアーが 終了しました

世界社会奉仕(WCS)委員会  
委員長 齋藤修弥(室蘭RC)

タイ国ノンカイRCとRI2510地区との友好と親善を深めると共に、昨年度から今年度にかけて実施した諸事業の検証を兼ねた当委員会の訪問ツアーを、去る11月2日から6日にかけて実施しました。参加メンバーは遠藤秀雄(登別RC)をはじめ、志比川武(蘭越RC)、出村知佳子(札幌北RC)、手塚貴志(白老RC)、長太義雄(札幌北RC)、瀧内洋(札幌南RC)、金井重博(札幌南RC)、齋藤修弥(室蘭RC)の8名です。連日30度を超す暑さでしたが精神的に4つの小学校の浄水施設の完成状態や、滝川RCから寄贈された救急車の利用状況を視察し、現地の関係者と親しく懇談してきました。この間2日間にわたるノンカイRCの周到な準備とサービスのお陰で予想以上の成果をあげる事が出来たと感謝しています。ノンカイを離れて早くも10日になりますが、4つの小学校で温かく出迎えてくれた子供たちの澄んだ瞳ときらきら輝く笑顔が印象的で、未だ私の眼の中に焼きついています。また、地域としても切実に安全な水の供給を求めており、付近の住民が多数この施設を利用しているという報告を受けました。改めてクリーンウォータープロジェクトの重要性を再認識しました。どうか2510地区各地のRCにおいても、これから積極的に水事業を検討し申請されますようお願いいたします。総じて今回のツアーは遠藤PGを中心とした「8人の侍」の素晴らしい友情とチームワーク、そしてノンカイのRCの徹底したホスピタリティのお陰で、極めて有意義に終了したものと深く感謝しています。私にとってはこれまでの人生の中で社会奉仕を考え直す一番印象深い旅であった事を申し添えます。次回は救急車の利用状況についてご報告いたします。



## 地区補助金委員会報告

補助金委員会  
委員長 朝倉正人(札幌東RC)

ロータリー財団は会員皆様のご寄付で、人道的、教育的、文化的プログラムの活動をしており、この基金が地区財団活動資金(DDF)になっています。

地区補助金は地域のため、あるいは経済的に恵まれない人々の生活を改善するために、地区が地元地域社会及び国際レベルでの人道的プロジェクトにDDFを使うことを認められています。

したがって各クラブで計画したプログラム、プロジェクトをRC活動申込書に内容、費用等を記入のうえ、申請をして頂くようお願い致します。

12月7日(水)に補助金委員会を開会し、塚原ガバナー、丸山ガバナーエレクト、遠藤R財団委員長、補助金監督委員会のメンバー、補助金委員の方々と公正に討議し、6クラブ7件の申請に対して、補助金を決定させて頂きました。

後期の予算が17,000ドル現在有しており、各クラブから積極的な活動申請書をお待ち申し上げております。

**補助金委員会において下記の補助金を決定**

1.七飯RC (8月18日)	町民より使用予定のないカレンダーを集め安価で販売し、収益金を七飯町社会福祉協会に寄付。	150,000円	5.美唄RC (11月28日)	線路を要しないユニークなデザインのSL型列車を各種イベント会場に於いて運行し、多くの子供たちを乗車させ夢を与える。	未定
2.札幌西RC (9月9日)	札幌育児園の児童達の慰問事業。親のいない子供達を旭川旭山動物園へ招待。	130,000円	6.岩見沢東RC (12月2日)	小学3年・4年生による8チームでのサッカー大会を実施。子供達に目標を持たせ、サッカーへの情熱を高揚させ、技術を高めることになる。	170,000円
3.苫小牧東RC (11月1日)	苫小牧市内に住む一定条件に当てはまる外国人による弁論大会を開催。国際交流を通して、互いの国籍や文化の違いに相互理解を深める。	350,000円		親のいない子供達を焼肉海鮮工房ラマへ招待。子供達とロータリアンが楽しい一時を過ごし、子供達の小さい頃の思い出作りをする。	80,000円
4.苫小牧北RC (11月11日)	市民の健康相談に無料で応じる。医師であるロータリアンが専門知識を生かし、健康に不安を持つ市民の話聞き、アドバイスをする。	130,000円	合 計		1,010,000円



## インターネット活用の薦め

情報・IC委員会

委員長 坂 井

治 (千歳セントラルRC)

### ◆73分の24

なんの数字かわかりますか？ 2510地区内73クラブ中ホームページを開設しているクラブの数です。現在次の24クラブがクラブホームページを持っています（倶知安、美唄、札幌幌南、札幌モーニング（私設）、札幌東、函館北、室蘭東、当別、上磯、苫小牧北、室蘭北、千歳セントラル、余市、深川、函館、千歳、滝川、函館五稜郭、札幌大通公園、函館亀田、砂川、江差、松前、札幌南）。このクラブのホームページは地区ホームページ（<http://www.ri2510.gr.jp/>）を開き、リンク集をクリックしていただきますと見ることが出来ます（Yahooなどの検索エンジンから「ロータリー2510」と入れても見ることが出来ます）。

情報・IC委員会ではクラブホームページの開設の支援もしています。開設したいがどうしたらよいかわからないと言うクラブがありましたらお手伝い致します。

### ◆メールマガジン（News2510）読者数

12月末日現在、460数人の登録があります。地区内メンバーは、約3,100人ですから約14%のメンバーの登録になります（クラブでご登録いただき全メンバーに転送していただいているクラブもありますので実際はもっと多いようです）。ホームページの更新情報など随時各種情報をメールでお伝えしています。まだご登録になっていないメンバーの方は是非読者登録をお願いいたします（地区ホームページから簡単にできます）。

### ◆ホームページへ投稿のお願い

皆さんのクラブやグループ、職場でのロータリーにかかわる行事や出来事をホームページに載せませんか？写真と原稿を添えてお送りください（送り先 o-sakai@titan.ocn.ne.jp または千歳セントラルRC事務局へ送付）。

■わからないことがありましたらご遠慮なく委員会までお問い合わせください■



# 室蘭東・登別・白老RC合同 家族同伴夜間例会

室蘭東RC



11月9日、登別ロータリークラブ主管で三クラブ合同夜間例会（室蘭東RC、登別RC、白老RC）が登別市ホテル平安にて開催されました。

室蘭東RCが登別RCの親クラブ、登別RCが白老RCの親クラブという事でいわば「親」、「子」、「孫」クラブ三世代のクラブが家族を含め一同に集いました。セレモニーに続き地区国際奉仕委員会の事業報告、そして懇親会では様々なゲームが企画され、ミニオリンピックと称したゲームでは脚力、腕力、ジャンプ力に勝る当クラブが総合優勝の賞金を、みごとにゲット。「親」としての面目を保ち楽しい一時を過ごしました。



## 日本事務局からのお知らせ

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

平成18年1月1日から東京三菱銀行とUFJ銀行の合併により東京三菱銀行のロータリー財団への寄付振込口座は銀行名が「**三菱東京UFJ銀行**」になります。

また、特定非営利活動法人ロータリー日本財団への寄付振込口座の支店名も「赤羽支店」から「**赤羽駅前支店**」(あかばねえきまえしてん)になります。

口座番号・名義は変更がございません。

平成18年1月1日以降の東京三菱銀行への寄付の振込口座

\*三菱東京UFJ銀行 本店 普通預金 1528228

国際ロータリー日本事務局 事務局長 大島 四郎

(特定非営利活動法人ロータリー日本財団への寄付の振込口座)

\*三菱東京UFJ銀行 赤羽駅前支店 普通預金 1568210

特定非営利活動法人ロータリー日本財団 理事長 岩井 敏(いわい とし)

国際ロータリー日本事務局 経理室

Tel: 03-3903-3183/Fax: 03-3903-3781

ロータリー財団への  
ご協力に感謝申し上げます

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

永井久之会員 (深川RC) 11月30日  
大沼哲郎会員 (留萌RC) 11月25日  
篠島弘会員 (滝川RC) 11月30日  
吉田正治会員 (滝川RC) 11月30日  
五十嵐閣会員 (岩見沢RC) 11月30日  
中村一二会員 (栗沢RC) 11月30日  
菊地弘嗣会員 (札幌東RC) 11月30日  
米谷龍三会員 (札幌東RC) 11月30日  
坂東宗一会員 (札幌東RC) 11月30日  
高橋徹会員 (札幌東RC) 11月30日  
奥村義夫会員 (札幌東RC) 11月30日  
羽部大仁会員 (札幌幌南RC) 11月30日  
浅井雅雄会員 (札幌幌南RC) 11月30日  
奥村建夫会員 (札幌幌南RC) 11月30日  
佐々木金治郎会員 認証漏れ (千歳RC) 1月28日  
高慶繁博会員 認証漏れ (千歳RC) 1月28日  
羽山昇蔵会員 (千歳RC) 11月30日  
岩崎暉久会員 (千歳RC) 11月30日  
村松克重会員 (千歳RC) 11月30日  
中山和朗会員 (千歳RC) 11月30日  
長澤邦雄会員 (千歳RC) 11月30日  
小笠原良会員 (千歳RC) 11月30日  
武石忠俊会員 (千歳RC) 11月30日  
中里邦治会員 (恵庭RC) 11月11日  
増田定雄会員 (函館北RC) 11月2日  
斎藤義寛会員 (室蘭北RC) 11月30日  
竹田公一会員 (函館RC) 11月18日

小泉護太郎会員 (函館セントラルRC) 11月30日  
和歌宏侑会員 (白老RC) 11月30日  
杉村孝会員 (白老RC) 11月30日

ポール・ハリス・フェロー

北村幸雄会員 (深川RC) 11月30日  
若浦俊夫会員 (栗沢RC) 11月30日  
椀澤忠彦会員 (栗山RC) 11月30日  
松原正和会員 (栗山RC) 11月30日  
梅津征夫会員 (札幌モニングRC) 11月18日  
村田彰夫会員 (札幌手稲RC) 11月30日  
川幡宏一会員 (札幌東RC) 11月30日  
南部昭憲会員 (札幌真駒内RC) 11月25日  
齋藤徹会員 (岩内RC) 11月30日  
小野晃裕会員 (小樽RC) 11月30日  
曙恒平会員 (千歳RC) 11月30日  
日向祥一会員 (千歳RC) 11月30日  
五十嵐宏会員 認証漏れ (千歳RC) 1月28日  
梶原勝会員 (千歳RC) 11月30日  
村田研一会員 (千歳RC) 11月30日  
大西信也会員 (千歳RC) 11月30日  
細川茂会員 (恵庭RC) 11月11日  
内田信一会員 (恵庭RC) 11月11日  
伊藤道雄会員 (函館セントラルRC) 11月30日  
増山正会員 (函館北RC) 11月2日

ベネファクター

遠藤秀雄会員 (登別RC) 11月18日

**ご協力に感謝申し上げます**

**米山記念奨学会へのご協力に感謝申し上げます**

**米山功労者**

山 腋 一 範 会 員 1 回 ( 深 川 RC ) 11 月 30 日  
 越 野 俊 興 会 員 1 回 ( 留 萌 RC ) 11 月 21 日  
 瓜 俊 雄 会 員 1 回 ( 砂 川 RC ) 11 月 25 日  
 津 田 政 勝 会 員 1 回 ( 江 別 RC ) 11 月 25 日  
 西 川 昇 会 員 6 回 ( 岩 見 沢 RC ) 11 月 9 日  
 三 嶋 顕 会 員 4 回 ( 岩 見 沢 RC ) 11 月 9 日  
 小 坂 昭 男 会 員 4 回 ( 岩 見 沢 RC ) 11 月 9 日  
 大 屋 均 会 員 4 回 ( 岩 見 沢 RC ) 11 月 9 日  
 佐 川 修 一 会 員 3 回 ( 岩 見 沢 RC ) 11 月 9 日  
 石 田 豊 明 会 員 2 回 ( 岩 見 沢 RC ) 11 月 9 日  
 荒 岡 春 雄 会 員 1 回 ( 岩 見 沢 RC ) 11 月 9 日  
 荒 木 英 雄 会 員 1 回 ( 岩 見 沢 RC ) 11 月 9 日  
 山 本 辰 勇 会 員 1 回 ( 岩 見 沢 RC ) 11 月 9 日  
 谷 勲 会 員 1 回 ( 岩 見 沢 RC ) 11 月 9 日  
 小 林 博 会 員 10 回 ( 札 幌 北 RC ) 11 月 8 日  
 谷 口 二 郎 会 員 27 回 ( 札 幌 西 北 RC ) 11 月 11 日  
 三 上 直 彦 会 員 7 回 ( 札 幌 西 北 RC ) 11 月 11 日  
 森 本 正 夫 会 員 5 回 ( 札 幌 西 北 RC ) 11 月 11 日  
 武 田 忠 和 会 員 3 回 ( 札 幌 西 北 RC ) 11 月 11 日  
 米 谷 龍 三 会 員 4 回 ( 札 幌 東 RC ) 11 月 2 日  
 滝 川 武 彦 会 員 1 回 ( 札 幌 東 RC ) 11 月 2 日  
 坂 東 宗 一 会 員 9 回 ( 札 幌 東 RC ) 11 月 30 日  
 菊 地 弘 嗣 会 員 3 回 ( 札 幌 東 RC ) 11 月 30 日  
 川 幡 宏 一 会 員 1 回 ( 札 幌 東 RC ) 11 月 30 日  
 高 橋 宣 充 会 員 2 回 ( 札 幌 清 田 RC ) 11 月 9 日  
 中 川 勝 之 会 員 4 回 ( 札 幌 南 RC ) 11 月 22 日  
 金 谷 寛 会 員 1 回 ( 札 幌 南 RC ) 11 月 22 日

三 国 信 樹 会 員 1 回 ( 札 幌 南 RC ) 11 月 22 日  
 中 村 孝 一 会 員 1 回 ( 札 幌 真 駒 内 RC ) 11 月 25 日  
 クリステンセン・トール 会 員 6 回 ( 札 幌 南 RC ) 11 月 16 日  
 富 樫 英 樹 会 員 5 回 ( 札 幌 南 RC ) 11 月 16 日  
 杉 目 幹 雄 会 員 3 回 ( 札 幌 南 RC ) 11 月 16 日  
 熊 本 努 会 員 1 回 ( 札 幌 南 RC ) 11 月 16 日  
 黒 田 忠 会 員 1 回 ( 札 幌 南 RC ) 11 月 16 日  
 青 木 健 次 会 員 1 回 ( 札 幌 南 RC ) 11 月 16 日  
 太 田 眞 琴 会 員 1 回 ( 札 幌 南 RC ) 11 月 16 日  
 中 島 一 郎 会 員 1 回 ( 札 幌 南 RC ) 11 月 16 日  
 田 井 秀 典 会 員 1 回 ( 札 幌 南 RC ) 11 月 16 日  
 和 田 丈 夫 会 員 1 回 ( 札 幌 南 RC ) 11 月 16 日  
 澤 田 隆 一 会 員 1 回 ( 札 幌 南 RC ) 11 月 16 日  
 吉 村 克 之 会 員 1 回 ( 小 樽 RC ) 11 月 9 日  
 松 倉 弘 会 員 1 回 ( 小 樽 RC ) 11 月 9 日  
 青 木 一 雄 会 員 1 回 ( 小 樽 RC ) 11 月 9 日  
 能 島 正 朋 会 員 1 回 ( 小 樽 RC ) 11 月 9 日  
 木 下 博 会 員 6 回 ( 室 蘭 RC ) 11 月 8 日  
 澤 山 豊 会 員 2 回 ( 室 蘭 北 RC ) 11 月 30 日

**米山功労クラブ**

深 川 RC 12 回 11 月 30 日  
 砂 川 RC 10 回 11 月 25 日  
 札 幌 北 RC 22 回 11 月 8 日  
 札 幌 東 RC 30 回 11 月 30 日  
 札 幌 南 RC 15 回 11 月 22 日  
 札 幌 南 RC 30 回 11 月 16 日  
 小 樽 RC 6 回 11 月 9 日

会員計報・新入会員のご紹介

会員計報



日沼俊栄 会員  
(岩見沢RC)

2005年11月11日  
ご逝去(享年77歳)

【 ロータリー 歴 】	1976年1月	入会
	1980～1981年度	雑誌委員長
	1994～1995年度	雑誌副委員長
	1997～1998年度	会員選考委員長
	2002～2003年度	米山奨学副委員長

【 表彰 】	25年100%出席
	マルチプル・ポール・ハリス・フェロー
	米山功労者(1)



佐々木昌利 会員  
(小樽南RC)

2005年11月17日  
ご逝去(享年59歳)

【 ロータリー 歴 】	1988年3月11日	入会
	1997～1998年度	会員増強委員長

【 表彰 】	
--------------	--



中川武彌 会員  
(小樽南RC)

2005年11月24日  
ご逝去(享年79歳)

【 ロータリー 歴 】	1975年6月6日	入会
	1993～1994年度	副会長
	1994～1995年度	会長
	2001～2002年度	理事・職業奉仕委員長
	2004～2006年度	会員選考委員長

【 表彰 】	マルチプル・ポール・ハリス・フェロー 20年100%出席
--------------	---------------------------------

新入会員  
のご紹介

(敬称略)



伊藤正明  
小樽南RC  
平成17年9月30日入会



本間公子  
小樽RC  
平成17年11月8日入会



廣田正  
岩内RC  
平成17年11月10日入会



今野安信  
札幌大通公園RC  
平成17年11月17日入会

ハリケーン・カトリーナ募金報告

地区内各クラブに募金をお願いを致しました『ハリケーン・カトリーナ募金』について、下記の51クラブから総額2,148,840円を頂戴致しました。

12月1日、募金窓口のロータリー財団へご送金致しましたのでご報告致します。ご協力誠にありがとうございました。

- 深川RC・妹背牛RC・小平RC・留萌RC・赤平RC・滝川RC・  
美唄RC・江別RC・岩見沢東RC・栗沢RC・栗山RC・当別RC・  
札幌RC・札幌あけぼのRC・札幌はまなすRC・札幌北RC・札幌モーニングRC・札幌西RC・  
札幌西北RC・札幌手稲RC・札幌東RC・札幌清田RC・札幌幌南RC・札幌真駒内RC・  
札幌南RC・札幌大通公園RC・新札幌RC・岩内RC・小樽RC・蘭越RC・  
余市RC・千歳RC・北広島RC・由仁RC・三石RC・様似RC・  
伊達RC・函館RC・函館亀田RC・七飯RC・長万部RC・函館セントラルRC・  
江差RC・函館五稜郭RC・函館東RC・函館北RC・上磯RC・白老RC・  
苫小牧RC・苫小牧東RC・苫小牧北RC

## 例会変更について・文庫通信

### 例会曜日・例会時間の変更について

- 苦小牧東RC：1月26日（木）夜間例会に変更 18：00～ 場所：グランドホテルニュー王子  
 苦小牧北RC：1月31日（火）移動夜間例会「新年家族会」18：00～ 場所：グランドホテルニュー王子「桃苑」  
 苦小牧RC：1月13日（金）夜間例会「新年家族会」18：00～ 場所：グランドホテルニュー王子「芙蓉の間」  
 1月27日（金）夜間移動例会 18：00～ 場所：第一洋食店  
 白老RC：1月10日（火）新年家族例会 18：00～ 場所：しらおい創造空間「蔵」（白老町本町）  
 伊達RC：1月10日（火）新年交礼会 18：00～  
 江別西RC：1月10日（火）新年夜間例会 18：00～ 場所：マキシドルパ  
 岩見沢東RC：1月17日（火）の例会を1月13日（金）に変更  
 岩見沢RCとの合同新年交歓会 18：00～ 場所：ホテルサンプラザ  
 室蘭北RC：1月10日（火）休会（1月8日～9日 新年1泊例会振替のため）  
 室蘭東RC：1月25日（水）創立45周年記念家族同伴夜間例会 18：30～ 場所：蓬峽殿

### 定例例会会場変更について

- 北広島RC：12月より例会場が下記の場所に変更となりました。  
 例会場：カフェ・グローブ  
 住所：北広島市栄町1-5-2 北広島ビル1階 電話：011-373-9696
- 札幌あけぼのRC：2月第一例会の定例夜間例会から  
 第一例会会場：宮の沢白い恋人サッカー場 レストラン「おうるず」2階  
 住所：札幌市西区宮の沢2-2 電話：011-666-3003  
 第二例会以降の会場：レストラン「あんとるぼー」

## 文庫通信 219号

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、1万9千余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

### 「地区大会講演から」

- |  |   |
|--|---|
| ◎「ロータリーの職業奉仕」<br>川尻政輝 2004 8p (D.2500)                     | ◎「多くの人たちとの出会いの中で」<br>松島トモ子 2005 9p (D.2590) |
| ◎「養老先生による『ぼけのおはなし』人の心と体にあたる脳の役割」<br>養老孟司 2005 18p (D.2780) | ◎「地域崩壊のバイタルサイン」<br>壊島庄治 2005 11p (D.2600)   |
| ◎「二本の手」<br>千田孝信 2004 12p (D.2840)                          | ◎「大転換期に直面した世界と日本」<br>中曽根康弘 2005 9p (D.2660) |
| ◎「如何に育てん我らの新世代 子どもの心が観えますか」<br>藤川享胤 2005 12p (D.2570)      | [上記申込先：ロータリー文庫（コピー）]                        |
| ◎「激動の2005年 日本の情勢を展望する」<br>福岡政行 2005 7p (D.2570)            |   |
| ◎「生き方雑記帖」<br>山本一力 2005 18p (D.2610)                        |   |

### ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3階  
 TEL (03) 3433-6456 FAX (03) 3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>  
 開館=午前10時～午後5時 休館=土・日・祝祭日

2005-2006年度下半期地区カレンダー

年	ロータリー月間強調事項	月	日(曜日)	地区の行事	日(曜日)	国内行事・国際行事	グループ内の行事 IM、クラブ周年行事
2006年(平成18年)	ロータリー理解推進月間	1		各クラブ半期報告、人頭分担金送金 青少年交換短期派遣生選考試験 07-08国際親善奨学生応募開始 ガバナー補佐会議 派遣GSEチーム壮行会			
	世界理解月間		5(日)	2006年度米山奨学生選考試験 札幌スキー・マラソン(新世代)	6(月) 16(木)~23(木) 18(木)	ガバナー・エレクト・米山奨学委員会セミナー 国際協議会(米国・サンディエゴ)	第4・5グループIM(札幌市)
	ロータリー創立記念日、 世界理解と平和の日(2/23)	2	11(土)	06-07国際親善奨学生オリエンテーション 函館大学ロータリーアクトクラブ創立35周年記念式典	18(土)~19(日) 25(土)	全国ロータリーアクト研修会	第2グループIM(滝川市)
	世界ロータリーアクト週間 (3/13を含む1週間)	3	5(日) 25(土) 25(土)~26(日)	2006年3月終了米山奨学生歓送会 地区チーム研修セミナー GSEチーム第3350地区(タイ)派遣予定 ロータリーアクト地区セミナー 地区R財団セミナー、地区米山セミナー 会長エレクト研修セミナー 07-08国際親善奨学生応募締切り		ロータリーの友委員会(予定)	
	ロータリー雑誌月間	4	9(日) 23(日)	地区協議会 青少年交換長期派遣生募集開始 財団学友帰国報告会 新規米山奨学生オリエンテーション・カウンセラー研修会	14(金)~15(土) 22(土)	ROTARY-NO-TOMO発行 第3700地区(韓国)地区大会	第10・第11グループIM(函館市)
		5		米山学友家族懇親会(予定)	11(木) 12(金)~13(土) 28(日)	JYEC大会(長崎県)	札幌北RC創立35周年(予定) 第3グループIM(美唄市) 余市RC創立45周年(予定) 札幌大通公園RC創立5周年(予定)
	R1国際大会 ロータリー親睦活動月間	6	17(土)	インターアクト地区年次大会(札幌市) ロータリーアクト地区年次大会(札幌市) 新旧地区委員長・ガバナー補佐合同会議 07-08国際親善奨学生選考試験 塚原年度地区要覧発行	5(月) 11(日)~14(水)	国際大会(コペンハーゲン・マルメ)	札幌南RC創立50周年(予定)
		9					米山記念奨学会、理事会、評議員会

## 11月出席率・会員増減数

クラブ数	73クラブ
期首会員数	2,986人
当月末会員数 (女性)	3,093人 (98人)
増加会員数	107人
当月平均出席率	83.47%

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数				出席率
			05.7.1	05.11.30	増減	内女性	
1	深 川	4	38	39	1	2	85.42
	羽 幌	3	49	49	0	1	75.97
	妹 背 牛	3	10	10	0	0	83.00
	小 平	4	13	13	0	0	78.85
	留 萌	4	49	51	2	0	95.34
	小 計		159	162	3	3	83.72
	2	赤 平	4	34	34	0	2
芦 別		3	48	48	0	0	86.05
砂 川		4	50	52	2	0	96.43
滝 川		3	106	109	3	1	75.85
小 計			238	243	5	3	86.43
3	美 唄	3	41	40	-1	0	88.23
	江 別	3	36	38	2	1	88.28
	江 別 西	5	35	36	1	3	91.66
	岩 見 沢	3	95	94	-1	0	90.15
	岩 見 沢 東	5	35	35	0	4	85.44
	栗 沢	4	24	24	0	1	87.50
	栗 山	5	26	28	2	2	91.68
	当 別	5	38	38	0	1	83.68
	小 計		330	333	3	12	88.33
4	札 幌	4	123	137	14	0	98.35
	札幌あけぼの	4	16	16	0	1	100.00
	札幌はまなす	4	23	25	2	4	69.79
	札 幌 北	3	43	41	-2	5	95.79
	札幌モーニング	4	53	53	0	0	67.65
	札 幌 西	4	72	75	3	4	89.06
	札 幌 西 北	3	48	49	1	2	94.19
	札 幌 手 稲	4	41	41	0	1	95.73
	小 計		419	437	18	17	88.82
5	札 幌 東	3	121	121	0	0	95.90
	札 幌 清 田	5	28	30	2	7	100.00
	札 幌 幌 南	4	70	69	-1	0	100.00
	札幌真駒内	4	46	48	2	3	93.33
	札 幌 南	4	89	93	4	0	93.99
	札幌大通公園	4	19	17	-2	4	83.82
	札幌セントラル	5	17	18	1	5	63.30
	新 札 幌	4	32	35	3	2	94.17
	小 計		422	431	9	21	90.56

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数				出席率
			05.7.1	05.11.30	増減	内女性	
6	岩 内	3	28	31	3	0	76.26
	倶 知 安	4	50	50	0	3	60.00
	小 樽	5	64	72	8	1	80.50
	小 樽 南	4	82	79	-3	0	86.24
	小 樽 銭 函	3	25	25	0	3	88.00
	蘭 越	4	11	11	0	0	76.94
	余 市	4	44	45	1	4	97.20
	小 計		304	313	9	11	80.73
7	千 歳	3	61	65	4	3	80.50
	千歳セントラル	5	27	28	1	0	81.40
	恵 庭	4	49	49	0	0	79.88
	北 広 島	4	17	17	0	2	90.59
	長 沼	4	18	18	0	3	80.56
	由 仁	3	13	13	0	0	87.18
	小 計		185	190	5	8	83.35
8	え り も	3	23	23	0	0	84.06
	三 石	4	16	17	1	1	92.64
	様 似	5	18	18	0	1	77.77
	静 内	4	66	72	6	0	62.46
	浦 河	5	33	35	2	1	75.43
	小 計		156	165	9	3	78.47
9	伊 達	5	55	59	4	0	79.32
	室 蘭	3	50	50	0	0	90.48
	室 蘭 東	4	43	47	4	0	94.20
	室 蘭 北	5	37	38	1	2	88.95
	登 別	4	36	36	0	2	84.95
	洞 爺 湖	4	9	9	0	0	91.80
	小 計		230	239	9	4	88.28
	10	函 館	3	91	91	0	0
函 館 亀 田		4	43	45	2	1	79.86
森		4	42	42	0	0	80.30
七 飯		4	20	22	2	0	57.90
長 万 部		4	10	10	0	0	63.00
函館セントラル		4	0	30	30	2	70.83
小 計			206	240	34	3	71.53
11	江 差	5	17	17	0	0	82.00
	函館五稜郭	4	63	64	1	0	82.59
	函 館 東	5	43	42	-1	4	85.00
	函 館 北	4	32	33	1	0	80.51
	上 磯	3	26	24	-2	2	54.10
	松 前	4	9	9	0	1	70.00
小 計		190	189	-1	7	75.70	
12	白 老	5	23	23	0	0	78.00
	苫 小 牧	4	56	60	4	1	62.94
	苫 小 牧 東	3	31	30	-1	3	81.61
	苫 小 牧 北	4	37	38	1	2	94.29
	小 計		147	151	4	6	79.21
合 計		2,986	3,093	107	98	83.47	

**SERVICE** Above Self

